

◆ 今週のコメント

- ・ 第1週(12月31日～1月6日)は、年末年始のため定点医療機関が休診日のところが多く、いつもより報告が少なくなっています。
- ・ RSウイルスの定点当たり報告数は、第1週は0.20(8例)で、第52週は0.56(23例)です。第52週の報告数は、本疾患が平成15年(11月)に五類感染症の対象となって以来、最も多い値となっています。

◆ 今週のトピックス:〈レジオネラ症〉

- ・ 平成19年の年報告数は20例と、平成11年4月以降の年報告数(0～8例)と比べて、顕著に多くなっています。詳細は、トピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数報告の感染症

- ・ 二類:結核 9例(喀痰塗抹陽性 4例)【4月以降の累積報告数 340例(喀痰塗抹陽性 100例)】
- ・ 四類:レジオネラ症(肺炎型) 1例(第52週)
- ・ 五類:後天性免疫不全症候群(AIDS) 1例(第52週)

定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	第1週		第52週	
		定点当たり報告数	報告数	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	1.24	84	1.38	94
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	3.61	148	11.07	454
	② 水痘	0.78	32	1.51	62
	③ RSウイルス感染症	0.20	8	0.56	23
	④ 突発性発しん	0.12	5	0.32	13
	⑤ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.10	4	0.88	36
眼科	流行性角結膜炎	0.10	1	0.10	1

病原体情報

(検体名は、紙面の都合上、咽頭ぬぐい液をNP, 糞便をFC, 髄液をSF, 尿をURと略す。)

検出病原体(報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名	検出病原体(報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名
コクサッキーウイルスB5型(1)	かぜ症候群(第49週)	NP	ノロウイルスGII(5)	感染性胃腸炎(第49～51週)	FC
インフルエンザウイルスAH1型(1)	インフルエンザ(第51週)	NP	A群ロタウイルス(1)	不明(第50週)	FC

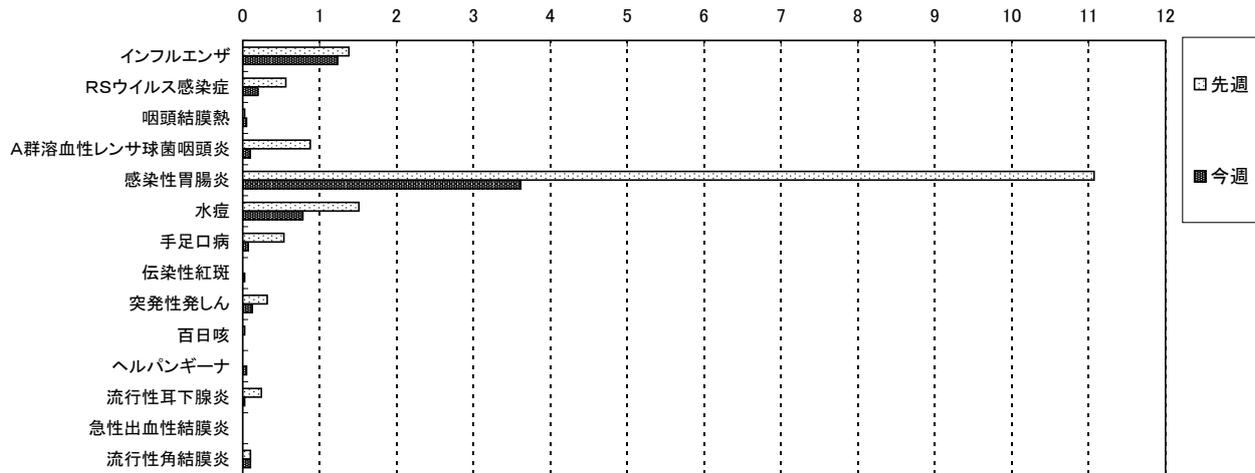
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:〈レジオネラ症〉

(注) 京都市のデータは、平成20年1月11日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。
病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

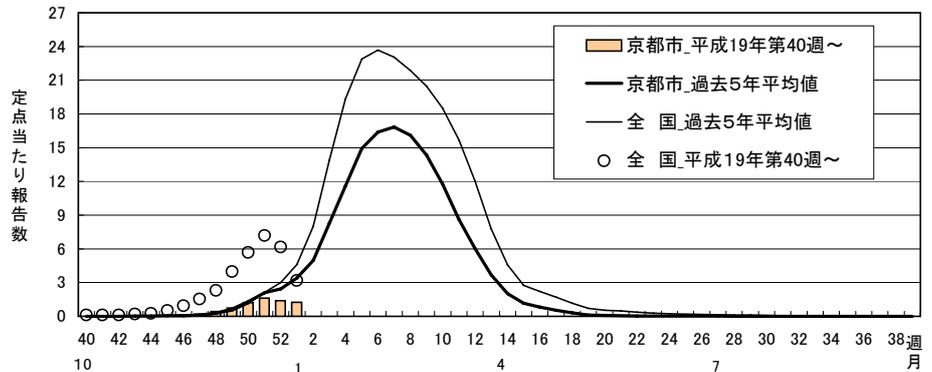
◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第1週)と先週(第52週)の定点当たり報告数の比較



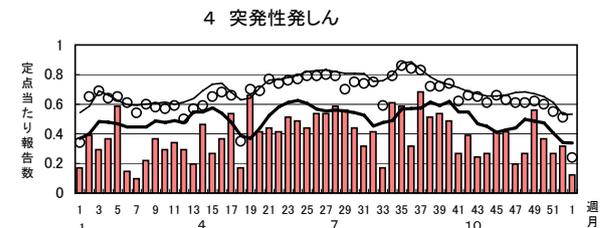
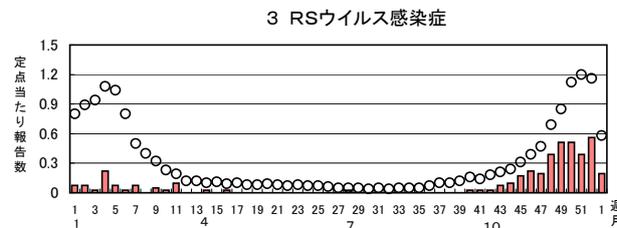
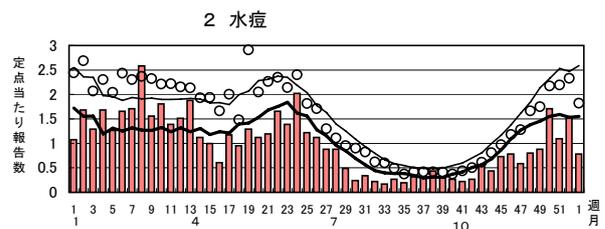
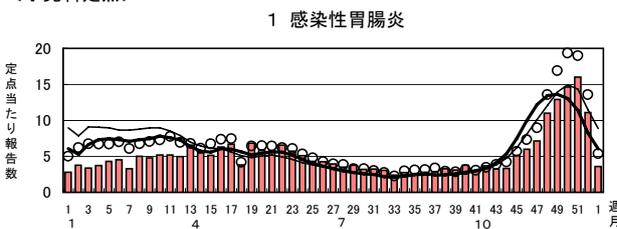
2 インフルエンザの定点当たり報告数の推移

週	報告数(例)
累積報告数 (第40週以降)	476
第1週	84
第52週	94
第51週	111
第50週	83
第49週	51



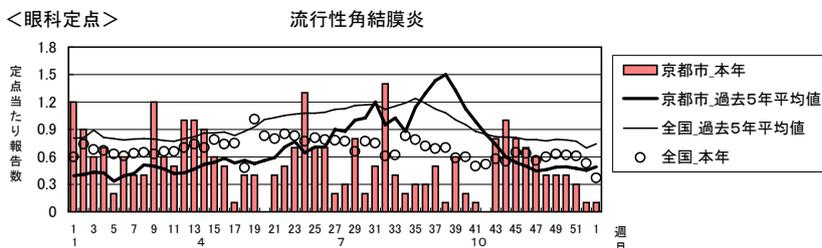
3 主な感染症(小児科)の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



※ 平成15年からの追加疾患のため、過去5年平均値はありません。

<眼科定点>



合併号のトピックス:〈レジオネラ症〉

平成19年の年報告数は20例と、全数報告感染症の対象となった平成11年4月以降の年報告数(0~8例)と比べて、顕著に多くなっています。全国でも同様の傾向です。届出数が増加した理由の一つとして、従来の血清学的検査や培養検査にかわり、簡易キットによる尿中抗原検査法の普及によるものと考えられます。本市においても、平成18年以降の28例のうち、25例が尿中抗原検査法により検出され、報告されています。

推定感染経路では、「平成19年」、「平成11年4月~平成18年」ともに水系感染が約3割を占めており、温泉や宿泊施設での感染が多くなっています。

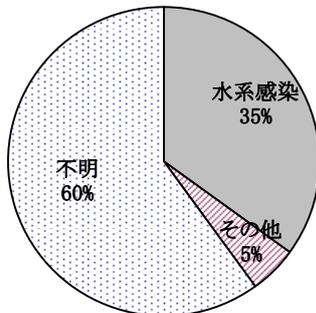
性別では、平成11年4月以降、男性がほとんどを占めており、年齢階級別では、50歳以上の高齢者で多く発症しています。

本年の都道府県別罹患率をみると、富山県、石川県の順に多く、近畿圏では京都府が21例(うち本市20例)と最も多くなっています。

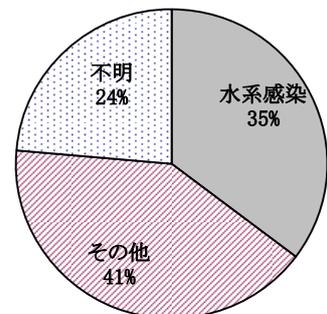
診断年推移

	本市	全国
平成11年4月~	0	56
平成12年	0	154
平成13年	1	86
平成14年	2	167
平成15年	3	146
平成16年	1	161
平成17年	2	281
平成18年	8	429
平成19年	20	655
計	37	2,135

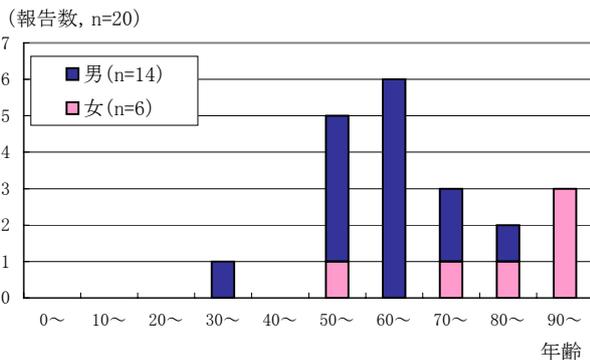
推定感染経路別構成割合
(本市, 平成19年, n=20)



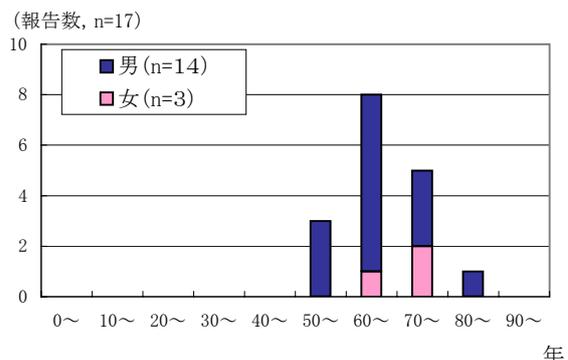
推定感染経路別構成割合
(本市, 平成11年4月~平成18年, n=17)



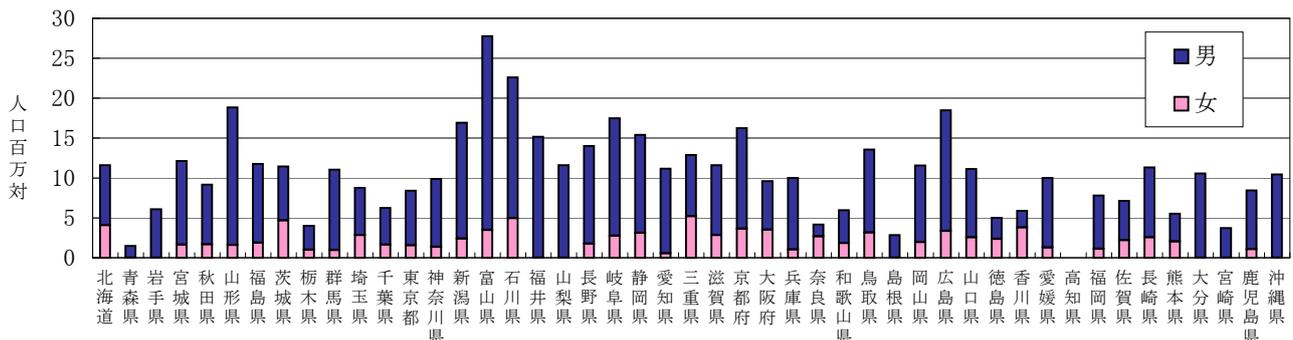
性別, 年齢階級別報告数(本市, 平成19年)



性別, 年齢階級別報告数(本市, 平成11年4月~平成18年まで)



都道府県別罹患率(平成19年, n=655)



※ 都道府県別人口は平成18年10月1日現在のものを使用